

本体にゴアテックスインフィニウム™ファブリクスを使用。裏地はトリコットで結露を軽減する。



フロアの立ち上がりを抑え、本体生地を地面近くまで伸ばした。これも結露を抑える工夫。(3-4人用は除く)



ポールはDAC社のフェザーライトを採用。強度は変わらず、従来モデルより軽くなった。(3-4人用は除く)



フライシートがあれば雨対策は万全。前室もつくれるので、雨の日も快適に過ごせる。(3-4人用は除く)

一枚の生地で外界を隔てるシングルウォールテントは、極地でこそ真価を発揮する。軽量で、構造がシンプルだから壊れにくい。シンプルゆえにどんなに疲れていても設営できるし、撤収も素早い。小型のモデルなら一畳のスペースがあれば立てられる。

こうした特徴を踏まえれば、国際的なアルパインクライマーや山岳ガイドが数多く所属する石井スポーツが長らくシングルウォールテントを手がけてきたのは、必然だったといえるだろう。シビアな登山になるほど信頼できる道具が必要となるが、彼らの声に耳を傾ければ、理想の形は明確に浮かび上がったに違いない。

「ゴアライト」の名前で1986年に登場したパイネブランドのシングルウォールテントは数多くの遠征や登山者に使用され、30年以上に渡って愛されるロングセラーとなった。最終モデルは2018年の「G-LIGHT」と「G-LIGHT X」。その間マイナーチェンジや名称の変更こそあれ、テントの形はまったく変わらなかった。そのG-LIGHTが、数量限定で復刻される。

復刻版はデザインこそ変わらないが、細部にはいくつかの変更がある。本体の素材は「ゴアテックスインフィニウム™ファブリクス」。テントやシュラフカバーで使用することを前提に調整されていて、防水透湿性とともに通気性を備える。裏地にトリコットをラミネートした3レイヤーで結露を軽減する。

以前のG-LIGHTはフロアの4辺をバスタブのように立ち上げていたが、復刻モデルではこの立ち上がりを低く抑え、本体生地を地面近くまで伸ばしている(3-4人用は除く)。これは透湿性を最大限まで高めたG-LIGHT Xが採用していた仕様。復刻版は、いわば30年の積み重ねの“いいとこ取り”だ。

ポールは旧モデルよりも軽いDAC社のフェザーライトを採用する(3-4人用は除く)。本体生地を伸ばしたことで増えた重量は、ポールの変更によって相殺した。2-3人用のサンプルは、本体+ポール+張り綱で実測1515g。旧モデルの1530gに比べ、わずかながら軽くなった。

登山本店に所属する国際アスピランガイドの天野和明は自身の海外遠征でもG-LIGHTやG-LIGHT Xを使用してきたが、復刻モデルのサンプルを冬の穂高岳や八ヶ岳でテストした。

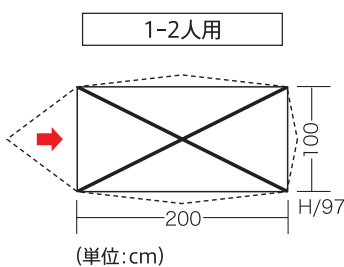
「市場を見ればシングルウォールは減っていますが、今ではこれより軽いダブルウォールも出てきていますが、よりシビアな条件の時には設営の手間や信頼性を考えると、多少重くはなってもこちらの方がメリットは大きいと僕は思います。新たなシングルウォールテントを作るべく、2018年の生産終了後も新しい防水透湿素材は模索していますが、テストしてみて、やはりゴアテックスはいいなと、あらためて感じました。結露の量がぜんぜん違いますね」

シングルウォールテントはコアな登山で生きる道具であることに間違いはないが、実はテント泊入門者にも優しい。

長い歴史をもつG-LIGHTテントには、フライシートやボトムシート、冬用外張りなどのオプションも豊富に揃っている。たとえば、雨が多い夏山で防水性がある本体にフライシートをかぶせれば防御は万全。便利な前室も確保できる。シングルウォールとしてはもちろん、ダブルウォールとしても使えるから、より幅広い場面で快適に使える。

入荷は早ければ7月下旬ころ。ゴアテックス生地で作るG-LIGHTは、おそらくこれが最後になる。

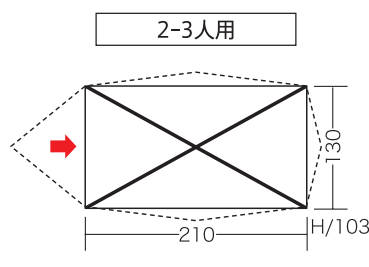
PAINE



PAINE/G-LIGHT TENT 1-2人用

価格 **¥63,980**(税込)

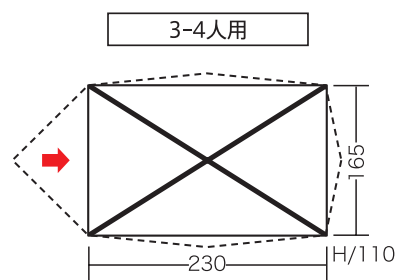
weight: 1320g(本体+ポール+張綱)



PAINE/G-LIGHT TENT 2-3人用

価格 **¥68,980**(税込)

weight: 1515g(本体+ポール+張綱)



PAINE/G-LIGHT TENT 3-4人用

価格 **¥75,980**(税込)

weight: 1910g(本体+ポール+張綱)



[共通] material: 本体/30dnリップストップナイロン+ゴアテックスインフィニウム™